

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 馬庭朝香

1. はじめに

この度は、本学の国際交流基金の助成を受けて 2019 年 8 月 18 日から 25 日までの期間カナダのバンクーバーを訪問し、医療英語レッスン、医療施設を見学するプログラムに参加したので報告いたします。

2. 医療英語レッスン

バンクーバーのダウンタウンと呼ばれるレストランやお土産物屋などが多く立ち並ぶ繁華街にある EURO CENTRES Vancouver に通い、14 人で授業を受けました。担任の先生は明るくて優しく、私たちが理解できるようゆっくりと説明してくださり、14 人全員が楽しく授業を受けることができました。

症状や病名、薬の名前などは聞き慣れない単語が多く、聞きとることと意味を覚えるのに苦労しましたが、医師と患者、薬剤師と患者の会話に使われる文法自体は日本でこれまで学習した内容でしたので、「医療英語」と力むことなく取り組みました。



3. 医療施設見学

授業後は通訳の方の引率のもと様々な医療施設を見学、また現地の医療施設で働いていらっしゃる日本人の方とお話しさせていただきました。日本との違いとして多く挙げられたのが、患者は何か症状が出たときに専門医へ行くのではなく、まずは総合医を診察しそこから専門医を紹介してもらうシステムであることと、薬剤師が薬局で注射を打たなくてはならないということでした。総合医の方が診察を行う病院に見学へ行った際、実際に手術を行なっている手術室へ入らせていただいたのは大変貴重な経験になりました。手術待ちをしている患者の数は膨大なようで、盲腸の手術は一泊で退院できます。また体内に埋め込む人工物(豊胸のパットや、骨の間を拡げる器具)は全てに ID が埋め込まれているようで、どの患者にどの器具が使用されたか記録されているらしく、このような管理方法はカナダならではのようです。

4. ホームステイ

私はノースバンクーバーに住むご夫妻にお世話になりました。とても人懐っこい犬と猫がいて馴れない生活の中では大変癒されました。朝は自分で冷蔵庫から食材を取り出して

準備し、昼はホストマザーがランチを作って持たせてくれました。こちらからの申し出や質問に対して親切に応じてくださり、とても素敵なお夫妻でした。

5. 終わりに

カナダへ行く前はとても不安で、上手くホストファミリーとコミュニケーションがとれるか、学校の授業で置いてきぼりにならないか心配でしたが、カナダに住むみなさんはとても親切で何をあんなに不安に思っていたのだろうと思うくらい楽しい時間を過ごせました。カナダで過ごしたことでもっと勉強してもっと英語を話せるようになり、沢山の方とコミュニケーションをとりたいと思うようになりました。

また馴れないところで一緒に過ごすことで学内から一緒に行った友達、先輩、後輩との仲もとても深まりました。

今回このプログラムに参加し、何か新しいことに挑戦することは始める前は不安だけれど、いざ踏み込むと沢山の物事に会えるとわかり、語学の理解以上に挑戦することの大切さと楽しさを学び、有意義な時間を過ごせました。

